

Pナラ Q形式の意味と用法

言語学・応用言語学専門分野
1LT09008G
荒牧奏子

2009(平成 21)年入学
2013(平成 25)年 1 月提出

要旨

Pナラ Q形式の文の用法は、従来の研究では提題、推薦文、連想などに分類されてきたが、その差異が明確に述べられてこなかった。そこで、本論文では P、Q に体言が生起する Pナラ Q構文におけるナラの操作について、上山(2012)の知識データベースの考え方に基づき「代表」、「話題」の2つの用法があると提案した。ナラが「データベース内を Pをキーワードとして検索し、検索結果から適切な Qを抽出する」という操作を行っており、その結果、Qが代表的なものとして提示される「代表」の用法と、特定の体言である Pが話題として提示される「話題」の用法が生じる。このことから、ナラはどちらの用法においてもキーワード検索と抽出操作を行っているが、Pの性質や抽出基準等の要因により「代表」、「話題」の用法に分けられると主張した。

1. はじめに.....	1
2. 先行研究.....	2
2.1. 鈴木(1992).....	2
2.2. 志澤(2011).....	3
3. 主張.....	5
3.1. データベースとキーワード検索.....	5
3.2. ナラの操作.....	5
3.2.1. キーワード検索.....	5
3.2.2. 抽出操作.....	6
4. 「代表」.....	7
4.1. 「代表」における抽出操作.....	7
4.2. Pの特徴.....	9
4.3. Qの特徴.....	9
4.4. PとQの関係.....	10
4.5. 連想.....	11
5. 「話題」.....	14
5.1. 「話題」における抽出操作.....	14
5.2. Pの特徴.....	15
5.3. 発話との関係.....	17
6. まとめ.....	19
7. 参考文献.....	21

1. はじめに

Pナラ Q形式の文には、(1)のように条件節を導く接続詞としての用法の他に、(2)、(3)のようにPに体言が生起する用法がある。

- (1) ビールを飲む**なら**運転できない。(P: ビールを飲む、Q: 運転できない)
- (2) ビール**なら**キリンだよなあ。(P: ビール、Q: キリン)
- (3) ビール**なら**冷蔵庫でしょ。(P: ビール、Q: 冷蔵庫)

(1)はP、Qどちらにも文が生起しており、Pは条件を表している。これは通常の仮定条件表現の用法である。しかし、(2)、(3)は(1)とは異なり、Pにそれぞれ「ビール」という同じ名詞が生起しており、Qにも同じ様に名詞が生起している。(2)、(3)は一見同じようにみえるが、(2)はビールの中で代表だと思えるものとしてキリンが提示されている一方で(3)はビールが話題となって冷蔵庫という保存場所が述べられており、代表という意味は持たない。では、(2)と(3)では具体的に何がどのように異なるのだろうか。それぞれでナラの操作は異なるのだろうか。

そこで本論文では(2)のようにQが代表的なものとして提示される用法を「代表」、(3)のようにPが話題として提示される用法を「話題」とし、それぞれの例文を観察することで以下の問題を明らかにしたい。

- (4) P、Qともに体言が生起するPナラQ形式の文において、ナラはどのような操作をおこなっているのか。
- (5) 「代表」、「話題」の用法にはそれぞれどのような特徴があるのか

本論文の構成は次の通りである。まず2章でPナラQ形式を扱っている先行研究を取り上げ、その問題点や課題を指摘する。そして3章で本論文の主張を述べ、以降の章で、主張で述べたナラおよびPナラQ形式の捉え方について具体的に分析・考察する。4章では知識データベースとナラの操作について、5、6章ではそれぞれの用法について例文を観察し整理しながら、PナラQ形式の意味と用法についての本論文での主張がどのように具体例をうまく説明できるのかを示す。7章はまとめとする。

2. 先行研究

Pナラ Q形式は『現代日本語文法』や野田(1995)、益岡(1993)等で多く取り上げられているが、どうしてそのような用法になるのかははっきりしない。その中で、鈴木(1992)と志澤(2011)を概観する。

2.1. 鈴木(1992)

鈴木(1992)では、単文を形成するナラは通常の仮定条件法との関係を強く持ちながらも、その省略や縮約ではなく、句ではない単独の体言がそのまま条件になっているとし、仮定条件法の表現形式ナラには(6)のように通常の仮定条件表現の用法、つまり接続助詞として複文を作る用法と、(7)、(8)のように句にではなく、単独の体言に条件形が付き、単文を形成するナラの用法があると述べている。

- (6) a. 飲んだら乗るな。乗るなら飲むな。 [鈴木 1992:1,(1)]
b. 甲：今日はデパートへ買い物に行ってきます。
乙：デパートへ行くなら、ついでにシャツを買ってきて下さい。
[鈴木 1992:1,(2)]
- (7) a. 酒なら灘の生一本。 [鈴木 1992:1,(3)]
b. 甲：今日はデパートへ買い物に行ってきます。
乙：買い物ならスーパーへ行きなさい。 [鈴木 1992:1,(4)]
- (8) a. 甲：最近フランスに行ってきたそうですね。
乙：いいえ、中国になら行きましたけど、フランスには行ってないですよ。
[鈴木 1992:6,(8)]
- b. 甲：何か書くもの持っていませんか。
乙：鉛筆ならあります。 [鈴木 1992:6,(9)]
- c. 甲：歩けますか。
乙：ええ、ゆっくりなら歩けます。 [鈴木 1992:6,(10)]

そして、(7)のようなナラを「提題のナラ」、(8)のようなナラを「提題でないナラ」としている。提題のナラは前項、後項の組み合わせが「前提—焦点」となる場合であり、単独の体言が条件として提示され、その条件に適合するモノが後項として選ばれるとしている。また、提題でないナラは「焦点—前提」となる場合であり、前項が焦点となる場合は、条件を満たさないものを含んだグループの中から条件を満たすある前項が抜き出されてくることになるため、対比の色合いが強くと感じられると述べている。

しかし、(2)、(3)などの例文をみると、PとQを「前提—焦点」、「焦点—前提」とする

捉え方に問題が残る。また、「提題でないナラ」というだけでは、細かい用法を扱いきれていない。

2.2. 志澤(2011)

志澤(2011)では観察対象を(9)のような N_1 、 N_2 ともに名詞である「 N_1 ナラ N_2 」という広告のキャッチフレーズ等に使われる推薦文にしばらく考察をしている。

- (9) a. 酒なら越乃寒梅
b. 電子辞書ならカシオのエクスワード

しかし、(10)は推薦文としての解釈が難しく、また(11)の N_1 、 N_2 はどちらも「望ましくないもの」という一般知識があるにも関わらず(11)は推薦文として解釈されうる。

- (10) a. #ドラえもんならどら焼き
b. #インテリアならソファ
- (11) 軽犯罪なら万引き

以上のことから、 N_1 ナラ N_2 形式の持つ「望ましいものの提示・推薦」という機能は構文的機能であると述べ、(12)、(13)を主張している。

- (12) 推薦文の認可条件：
 N_1 ナラ N_2 形式は、 N_1 と N_2 が意味論或いは語用論的に「属性とその主体」の関係にあると解釈可能であり、かつ N_2 の候補が何らかの共通基準で比較・対象出来る場合に限り容認される。 [志澤 2011:78,(2a)]
- (13) 推薦文の仕組み：
 N_1 ナラ N_2 形式の推薦文解釈は言語形式の表す論理的意味と N_1 、 N_2 間に成立する論理的意味のねじれから生み出される。 [志澤 2011:78,(2b)]

また、 N_1 、 N_2 に関しては以下のことを主張している。

- (14) a. N_1 は、非指示的名詞句が生起する（一般に属性・性質・比較基準を表す）
i. 直示的な要素が生起できない
ii. 数量詞を含む表現が生起できない
iii. 「～というもの」を付加することが出来ない
 N_1 に比較基準そのものを表す名詞を提示することも出来る。

- b. N_2 は、指示的名詞句が生起する
 - i. 直示的要素が生起出来る
 - ii. 世界の中の個体を指示するものが生起できる。

しかし、問題点として観察対象が N_1 、 N_2 ともに名詞である「 N_1 ナラ N_2 」という推薦文に絞られているため、名詞が生起していても推薦の意味ではないナラの用法については扱われていないことが挙げられる。

3. 主張

本論文では、(4)の問題提起に対し(15)を、(5)に対しては(16)、(17)をそれぞれ主張する。

- (15) ナラはデータベース内を P をキーワードとして検索し、検索結果から適切な Q を抽出するという操作を行う。
- (16) Q が検索結果からある抽出基準によって抽出され、 P に総称的な体言が生起する場合、「代表」の用法・解釈となる。
- (17) Q が検索結果から抽出され、 P に特定の体言が生起する場合、「話題」の用法・解釈となる。

以下、前提となる概念を説明しておく。

3.1. データベースとキーワード検索

本稿では知識データベースという考え方をを用いてナラの操作について考えていく。本論文でいうデータベースとは X_n や E_n で表わされるものであり、上山(2012)で説明されている Information Database のことである。Information Database ではさまざまなモノやコトがその性質とともに記憶されており、具体的なモノを X_n で、具体的なコトを E_n で表す。住所録や名簿のようなデータベースと基本的に同じイメージであり、「勤め先の住所」、「携帯電話の番号」のような項目 (attribute) について、その値 (value) が書き込まれている。しかし、住所録などの場合とは異なり、すべての X や E に対して attribute があらかじめ用意されているわけではなく、どのような情報が書かれているかは X や E によってまちまちである。また、 x_n で表わされているのはまだ X や E に結び付けていない、各語彙項目が変換された 1 つ 1 つの式である。

- (18) $X_n[\text{attribute1 : value1, attribute2 : value2, attribute3 : value3...}]$

3.2. ナラの操作

3.2.1. キーワード検索

P に体言が生起する P ナラ Q 形式の文において、ナラはデータベース内を P をキーワードとして検索するという操作を行っており、 P が attribute もしくは value のどちらかに含まれていればその情報 X_n は Q になり得るものの候補としてキーワード検索に引っかかる

と考える。たとえば、キーワード P が「九州」であれば、そのキーワード検索の結果は(19)のようになる。

- (19) P が「九州」の場合に Q になり得るものの候補
- a. X₁₀₀[名称：福岡、類：地名、地方：九州、観光地：{太宰府、天神、門司港...}、特産品：{明太子、モツ鍋...}、特徴：博多弁]
 - b. X₁₀₁[名称：九州大学、類：大学名、所在地：福岡、特徴：九州にある旧帝大]
 - c. X₁₀₁[類：九州新幹線、所属：JR九州、開業：2011年3月、ルート：博多～鹿児島中央、特徴：鹿児島まで1時間ちょっと]

3.2.2. 抽出操作

ナラは P をキーワードとしてデータベースを検索し、Q を抽出するという操作を行う。

(20)は「代表」の用法の例である。(22b)～(22d)は「ビール」をキーワードとしてデータベースを検索した結果であり、この中から「一番おいしいビールを作っているビール会社の製品であるかどうか」という抽出基準によって(22b)の「麒麟」が抽出される。

- (20) (スーパーでビールを買うときに)
ビールなら麒麟だな。
- (21) a. x₁[類：ビール]
b. x₂[社名：麒麟]
- (22) a. X₁[類：ビール、所属：酒、種類：{生ビール、黒ビール、ラガービール...}、ビール会社：{麒麟、アサヒ、サッポロビール、サントリー}、銘柄：{一番搾り、麒麟ラガー、スーパードライ...}、合うつまみ：枝豆]
b. X₂[名称：麒麟、類：ビール会社、銘柄：{麒麟ラガー、麒麟フリー}、おいしさ：ビール会社の中で一番]
c. X₂₀[名称：アサヒ、類：ビール会社、銘柄：{スーパードライ、ドライゼロ}、特徴：辛口]
d. X₄[名称：枝豆、所属：豆類、色：黄緑、調理方法：ゆでる、合う飲み物：ビール]

「話題」の用法でも、この「抽出」という同一の操作が行われている。

4. 「代表」

4.1. 「代表」における抽出操作

本章では「代表」の用法における抽出操作を詳しくみていく。

まずビールそのものを見たり、その単語を聞いたりした際に「ビール」というキーワードが検索され、データベースの中にある「ビール」に関する項目が選択される。(25a) それから、そのときの状況、動作によって情報の「一番おいしいビールを作っているビール会社の製品であるかどうか」という抽出基準が決まり、「麒麟」の情報(25b)と照らし合わせて「麒麟」が抽出される。つまり、代表のナラは自分のデータベースの中から文脈による基準によって必要な情報を選択、抽出するという操作を行っていると考えられる。(25b)以外にも多くの情報が Q の候補として検索されるが、以下には抽出された Q である(25b)のみの情報を記載する。また、抽出基準というのは話者がデータベース内の知識と照らし合わせて主観的に定めた判断基準のことであり、この基準によってキーワード検索の結果から Q が抽出される。

- (23) (スーパーでビールを買うときに)
ビールなら麒麟だな。
- (24) a. x₁[類：ビール]
b. x₂[社名：麒麟]
- (25) a. X₁[類：ビール、所属：酒、種類：{生ビール、黒ビール、ラガービール...}、ビール会社：{麒麟、アサヒ、サッポロビール、サントリー}、銘柄：{一番搾り、麒麟ラガー、スーパードライ...}、合うつまみ：枝豆]
b. X₂[名称：麒麟、類：ビール会社、銘柄：{麒麟ラガー、麒麟フリー}、おいしさ：ビール会社の中で一番]
- (26)では、「京都」というキーワードで検索し、(29)を抽出基準として(28b)の「金閣寺」を抽出している。
- (26) (京都旅行でまわる観光地を決めているときに)
京都なら金閣寺だ。
- (27) a. x₁[名称：京都]
b. x₂[名称：金閣寺]

- (28) a. X₅[名称：京都、類：地名、地方：関西、観光地：{金閣寺、清水寺...}、特産品：{八ツ橋、宇治茶...}、特徴：京都弁]
 b. X₆[名称：金閣寺、所在地：京都、類：寺、色：金色、特徴：{京都で一番有名な観光地、一度行ってみたい観光地}]
- (29) (抽出基準) 京都で一番有名な観光地かどうか

(30)では「ビールを飲む」、「つまみにピーナッツが出される」という状況から、「ビールに合うつまみかどうか」という抽出基準が決まり、「枝豆」が抽出される。

- (30) (ビールを飲んでいて、つまみにピーナッツが出されたときに) ビールなら枝豆だよな。
- (31) a. x₁[類：ビール]
 b. x₂[名称：枝豆]
- (32) a. X₅[類：ビール、所属：酒、種類：{生ビール、黒ビール、ラガービール...}、ビール会社：{キリン、アサヒ、サッポロビール、サントリー}、銘柄：{一番搾り、キリンラガー、スーパードライ...}、合うつまみ：枝豆]
 b. X₄[名称：枝豆、所属：豆類、色：黄緑、調理方法：ゆでる、特徴：つまみとしてビールに一番合う]

以下も同じように説明可能である。

- (33) a. SMAPなら「世界に一つだけの花」だね。
 b. 風邪ならバファリンだな。
 c. 福岡なら明太子だよな。
 d. 夏ならスイカだな。
 e. ニュースならNHKだな。
 f. だら焼きなら粒あんだよな。
 g. 生協ならコープだよな。
 h. 賃貸アパートのことならアバマンショップだな。
 i. 九州なら新幹線だな。
 j. ソフトバンクなら上戸彩だな。
 k. 日本人なら緑茶だよなあ。
 l. 資格ならユーキャン [志澤 2011 : 78,(1), 80,(5), 84,(18b)]
 m. 旅行なら京都 [志澤 2011 : 81,(10d)]

- n. 酒なら越乃寒梅 [志澤 2011 : 80,(7a), 84,(18a)]
 o. 日本酒なら大七酒造 [志澤 2011 : 84,(18c)]
 p. 英会話ならベルリッツ [志澤 2011 : 81,(10a)]
 q. 中華まんならヤマザキ [志澤 2011 : 81,(10c)]
 r. 電子辞書ならカシオのエクスワード [志澤 2011 : 80,(7b)]

4.2. P の特徴

「代表」の用法における P には総称的な体言が生起するが、それ以外にも P には物事の判断基準を表す名詞が生起することもできる。(34)では、「かわいさ」という自分の中のデータベースの項目が選択され、それに女優の中で一番かわいいかどうかという抽出基準が加わって「上戸彩」の情報と照合することで、上戸彩が抽出され、Q として提示されると考えられる。

- (34) (女優の話をしているときに) かわいさなら上戸彩だな。
- (35) a. x₁[類：かわいさ]
 b. x₂[名称：上戸彩]
- (36) b. X₁₀[名称：上戸彩、類：女優、かわいさ：女優の中で一番]

以下の例も同じように説明できる。

- (37) a. おいしさなら越乃寒梅 [志澤 2011 : 89,(29a)]
 b. {合格率/資格の種類}ならユーキャン [志澤 2011:89,(29b)]
 c. 対応の良さならアバマンショップだな。
 d. 速さなら新幹線だよな。
 e. 安さならベルリッツだな。
 f. 使いやすさならカシオのエクスワードだ。
 g. 街並みの美しさなら京都だよな。

4.3. Q の特徴

Q には直示的表現が生起することができる。

- (38) a. ビールならこれだな。

- b. 京都**なら**あそこだ。
- c. ビール**なら**この枝豆だよな。
- d. SMAP**なら**あの「世界に一つだけの花」だね。
- e. 風邪**なら**それだな。
- f. 福岡**なら**この明太子だよな。
- g. 夏**なら**あのスイカだな。
- h. ニュース**なら**これだな。
- i. だら焼き**なら**この粒あんだよな。
- j. 生協**なら**あそこだよな。
- k. 賃貸アパートのこと**なら**このアパマンショップだな。
- l. 九州**なら**あの新幹線だな。
- m. ソフトバンク**なら**彼女だな。
- n. 日本人**なら**あれだよなあ。
- o. 資格**なら**ここのユーキャン。
- p. 旅行**なら**あそこだね。
- q. 酒**なら**あれ。
- r. 英会話**なら**あそこのベルリッツ。
- s. 中華まん**なら**これ。
- t. 電子辞書**なら**このカシオのエクスワードだな。
- u. うまい酒**なら**ココ！

[志澤 2011 : 86,(22a)]

4.4. P と Q の関係

「代表」における P ナラ Q 形式では、P と Q が同じ種類に属するもの、同じ所属のものの場合容認不可能な文となる。(39)は P : 「ビール」も Q : 「日本酒」も酒の種類の一つであり、同じ「酒」という種類に属しているため容認不可能である。

(39) *ビール**なら**日本酒だな。

(40) a. x₁[名称 : ビール]

b. x₂[名称 : 日本酒]

(41) a. X₇[類 : ビール、所属 : 酒、種類 : {生ビール、黒ビール、ラガービール...}、ビール会社 : {キリン、アサヒ、サッポロビール、サントリー}、銘柄 : {一番搾り、キリンラガー、スーパードライ...}、合うつまみ : 枝豆] b. X₈[類 : 日本酒、所属 : 酒、銘柄 : {久保田、越乃寒梅...}、特徴 : 冷酒と熱燗がある、ビールよりア

ルコール度数が高い]

(42) *京都**なら**福岡だ。

(43) a. x₁[名称 : 京都]

b. x₂[名称 : 福岡]

(44) a. X₇[名称 : 京都、類 : 地名、地方 : 関西、観光地 : {金閣寺、清水寺...}、特産品 : {八ツ橋、宇治茶...}、特徴 : {京都弁、盆地}]

b. X₈[名称 : 福岡、類 : 地名、地方 : 九州、観光地 : {太宰府、天神、門司港...}、特産品 : {明太子、モツ鍋...}、特徴 : 博多弁]

以下も同じように説明できる。

(45) a. *ピーナッツ**なら**枝豆だよな。

b. *SMAP**なら** V6 だね。

c. *風邪**なら**喘息だな。

d. *モツ鍋**なら**明太子だよな。

e. *夏**なら**冬だな。

f. *ニュース**なら**バラエティだな。

g. *こしあん**なら**粒あんだよな。

h. *生協**なら**コープだよな。

i. *賃貸アパートのこと**なら**アパマンショップだな。

j. *九州**なら**新幹線だな。

k. *ソフトバンク**なら** au だよなあ。

l. *ニチイ**なら**ユーキャン

m. *旅行**なら**遠足

n. *久保田**なら**越乃寒梅

o. *日本酒**なら**焼酎

p. *ジオス**なら**ベルリッツ

q. *中華まん**なら**しゅうまい

r. *電子辞書**なら**電子ピアノ

4.5. 連想

今まで見てきたように「代表」の用法における Q は発話者の思う「代表的なもの」という意味を持つ。これは志澤 (2011) が観察してきた推薦文と類似する。しかし、同じ「代表」の用法であっても、多数の候補の中の「代表」というよりも、候補から別の候補

を「連想」といった意味合いが強くなる場合がある。これは P に関するデータベースの中から Q を抽出する際に、“いくつかある候補の中から Q を選んで抽出する”といったことがなく、Q がほとんど 1 つに決まっているためであると考えられる。

(46a)では P は「飲料メーカーの麒麟」を示している。この場合、Q の候補はいくつかあるため、その中から発話者が Q :「ビール」を代表的なものとして選び提示しているといえる。(46b)の場合、Q は P に関する発話者のデータベースの中から発話状況に応じて適切なものが抽出され提示されたものである。また「麒麟ならあの動物だな。」と Q に直示的な要素が生起可能である。しかし、P はただ「麒麟」という単語を示しており、Q の候補は 2 つしかないため、結果的に Q は代表的なものとして抽出されたというよりも連想されたものであると感じられる場合がある。

(46) 麒麟なら動物だな。

(47) a. x₁[名称：麒麟]

b. x₂[類：動物]

(48) a. X₁[名称：麒麟、類：{飲料メーカー、動物}]

(49) b. X₂[類：動物、種類：{哺乳類、両生類、ハ虫類、げっ歯類、鳥類…}]

(50) (お寺の所在地について話しているときに)
金閣寺なら京都だよな。

(51) a. x₁[名称：金閣寺]

b. x₂[名称：京都]

(52) a. X₄[名称：金閣寺、所在地：京都、類：寺、特徴：{金色、有名な観光地}、一度行ってみたい観光地]

b. X₃[名称：京都、類：地名、観光地：{金閣寺、清水寺…}、特産品：{八ツ橋、宇治茶…}、特徴：京都弁]

(53) 枝豆ならビールだよな。

(54) a. x₁[名称：枝豆]

b. x₂[類：ビール]

(55) a. X₆[名称：枝豆、所属：豆類、色：黄緑、調理方法：ゆでる、特徴：つまみとしてビールに一番合う]

b. X₅[類：ビール、所属：酒、種類：{生ビール、黒ビール、ラガービール…}、ビー

ル会社：{麒麟、アサヒ、サッポロビール、サントリー}、銘柄：{一番搾り、麒麟ラガー、スーパードライ…}、特徴：{仕事終わりの一杯がおいしい、枝豆が合う}]

以下に挙げる例も、同様に考えられる。

(56) a. 「世界に一つだけの花」なら SMAP だな。

b. バファリンなら風邪だな。

c. 明太子なら福岡だよな。

d. スイカなら夏だな。

e. NHK ならニュースだな。

f. 粒あんならどら焼きだよな。

g. コーブなら生協だよな。

h. アパマンショップなら賃貸アパートのことだな。

i. 新幹線なら九州だな。

j. 上戸彩ならソフトバンクだな。

k. 緑茶なら日本人だよな。

l. ユーキャンなら資格だな。

m. 京都なら旅行だよな。

n. 越乃寒梅なら酒だな。

o. 大七酒造なら日本酒だよな。

p. ベルリッツなら英会話だな。

q. ヤマザキなら中華まんだよな。

r. カシオのエクスワードなら電子辞書だな。

5. 「話題」

5.1. 「話題」における抽出操作

「話題」の用法における P は前の発言、もしくは行動で話題となっている事柄であり、特定の体言である。(57)では発話状況によって特定された P である「ビール」をキーワードとしてデータベース内を検索する。検索後、(59a)と(59b)の情報が照合され、抽出されて Q である「冷蔵庫」が提示される。

(57) A: ビールってどこだっけ?
B: ビール**なら**冷蔵庫でしょ。

(58) a. x_1 [類: ビール]
b. x_2 [名称: 冷蔵庫]

(59) a. X_{11} [類: ビール、所属: 酒、購入日: 2012年11月7日、購入者: Bさん、購入本数: 3本、銘柄: スーパードライ、現在の保存場所: 冷蔵庫]
b. X_{12} [類: 家電、名称: 冷蔵庫、ある場所: 台所、色: 白、入ってるもの: {お茶、牛乳、ドレッシング、梅干し、ビール、晩御飯の残り、漬物、チーズ、ベーコン・・・}]

(60) (BさんがサロンにいてAさんから電話がかかってきたとき)
A: 田中はそっちにいますか?
B: 田中**なら**図書館だよ。

(61) x_1 [人名: 田中]

(62) a. X_{13} [人名: 田中太郎、性別: 男、関係: クラスメイト、研究室: 言語学、現在の居場所: 図書館]
b. X_{14} [名称: 図書館、類: 施設名、]

以下も同じように説明できる。

(63) a. A: 花子はどこにいるの?
B: 花子**なら**台所だよ。
花屋**なら**近所だ。
c. 福岡公演**なら**12月15日だ。

f. 中華まん**なら**レンジの中だよ。
g. ニュース**なら**7時からだよ。
l. 肉じゃが**なら**得意だ。
m. 彼のパンチの強さ**なら**一番だ。

5.2. Pの特徴

P は総称的な名詞ではなく、特定の名詞である。(64)における「ビール」というのは「2012年11月7日にBさんが3本購入したビール」のことであり、その点で(20)とは大きく異なる。 X_{11} は話題に上がっているビールに対するBの知識を表したものである。

(64) A: ビールってどこだっけ?
B: ビール**なら**冷蔵庫でしょ。

(65) a. x_1 [類: ビール]
b. x_2 [名称: 冷蔵庫]

(66) a. X_{11} [類: ビール、所属: 酒、購入日: 2012年11月7日、購入者: Bさん、購入本数: 3本、銘柄: スーパードライ、現在の保存場所: 冷蔵庫]

(67)における X_{12} では、「田中」という名詞に関する知識ではなく、Bさんのデータベースの中にある、特定の「田中」という人に関する知識が示されている。

(67) (BさんがサロンにいてAさんから電話がかかってきたとき)
A: 田中はそっちにいますか?
B: 田中**なら**図書館だよ。

(68) x_1 [人名: 田中]

(69) X_{12} [人名: 田中太郎、性別: 男、関係: クラスメイト、研究室: 言語学、現在の居場所: 図書館]

また、P にいわゆるコソアのような指示詞がつく名詞も生起することが出来るのも、P が特定の対象を示す体言だからこそである。

(70) a. A: ビールってどこだっけ?
B: あのビール**なら**冷蔵庫でしょ。
b. A: 花子はどこにいるの?

- B : あの花子**なら**台所にいるよ。
- c. この花屋**なら**近所だ。
- d. あの福岡公演**なら**12月15日だ。
- e. あの中華まん**なら**レンジの中だよ。
- f. そのニュース**なら**7時からだよ。

P に直示的表現が付いていない場合は代表の用法であった文も、直示的表現が付くことによって P が特定のものとなり、話題の用法となる。

- (71) (ビールの銘柄当てをされていて、目の前に置かれたビールを一口飲んで)
このビール**なら**キリンだな。
- (72) a. x₁[名称: このビール]
b. x₂[名称: キリン]
- (73) a. X₁₄[類: ビール、所属: 酒、飲んだ日: 2012年11月27日、色: 小麦色、のどごし: すっきり]
b. X₁₅[名称: キリン、類: ビール会社、キリンビールの特徴: {小麦色、のどごしすっきり}]
- (74) (京都旅行でまわる観光地を決めているときに)
今年の京都**なら**金閣寺だ。
- (75) a. x₁[名称: 今年の京都]
b. x₂[名称: 金閣寺]
- (76) a. X₁₆[名称: 今年の京都、特徴: 金閣寺でイベントをやっている]
b. X₁₇[名称: 金閣寺、所在地: 京都、類: 寺、特徴: {金色、有名な観光地、2013年にイベントがある}]

以下の例も同様である。

- (77) a. このビール**なら**枝豆だよな。
b. 今年の SMAP **なら**「世界に一つだけの花」だね。
c. その風邪**なら**バファリンだな。
d. あの福岡**なら**明太子だよな。
e. 来年の夏**なら**スイカだな。

- f. あのニュース**なら** NHK だな。
g. このどら焼き**なら**粒あんだよな。
h. あの生協**なら**コープだよな。
i. その賃貸アパートのこと**なら**アパマンショップだな。
j. 今年の九州**なら**新幹線だな。
k. 去年のソフトバンク**なら**上戸彩だな。
l. この資格**なら**ユーキャンだ。
m. 今回の旅行**なら**京都だな。
n. あの酒**なら**越乃寒梅だよな。
o. その日本酒**なら**大七酒造だ。
p. 私の英会話**なら**ベルリッツだな。
q. この中華まん**なら**ヤマザキだよな。
r. 彼の電子辞書**なら**カシオのエクスワードだな。

P、Q どちらにも直示的表現が生じた場合でも、やはり P が特定のなものであるため「話題」の用法となる。

- (78) a. そのうまい酒**なら**ココだ。
b. 私の電子辞書**なら**これだ。

5.3. 発話との関係

「話題」の用法の場合でも、会話や文脈等がなくても発言できる。(79)の A の発言は(57)の B の発言と同じものであるが、(79)のようにいきなり A が文脈なしで発言をしても、B は A の発言した「ビール」が特定のビールである、つまり話題の用法であると理解することができる。

- (79) A : ビール**なら**冷蔵庫だよ。
B : 今日買ってきてくれたんだね。

この場合には、「冷蔵庫」が「キリン」のようなビール会社を指すものではなく、ビールの保管場所になりうるものであるといったデータベース内の知識により、P の「ビール」を総称的でない、特定のものと判断するのだと考えられる。

ただし、やはり「話題」の用法は「代表」の用法よりも会話のある場面で発言されることが想定されやすい。会話をしていることなどによってある特定の文脈がある場合、P もしくは Q が発話状況と何も関係がなければ、その文は容認不可能となる。(80)では、A の

発言における「ビール」が特定のなものであるのに対し、B の発言における「ビール」は A の発言とは何ら関係のない総称的なものである上に、「キリン」は場所を示す語ではないので、P が特定のではなく、この場合 B は容認不可能となる。

- (80) A: ビールってどこだっけ?
B: ビールなら冷蔵庫でしょ。
a.*ビールならキリンでしょ。
b.*ビールなら枝豆でしょ。
c.*ジュースなら買ってないよ。
- (81) A: 田中はそっちにいますか?
B: 田中なら図書館だよ。
a.*鈴木ならいません。
b.*田中なら真紀子だな。
c.*田中なら日本人によくある名前だな。
- (82) A: 花束を頼みたいけど、花屋って遠いよね?
B: 花屋なら近所だよ。
a.*花屋なら花キューピットだ。
b.*花屋なら。
- (83) A: SMAP のライブっていつあるんでしたっけ?
B: 福岡公演なら 12 月 15 日ですよ。
a.*福岡公演ならヤフードームですよ。
b.*ライブなら野外が一番だ。
- (84) A: 私の中華まんは?
B: 中華まんならレンジの中だよ。
a. *中華まんならヤマザキだよ。
b. *中華まんなら夏より冬だね。
- (85) A: ニュースって何時から?
B: ニュースなら 7 時からだよ。
a. *ニュースなら NHK だ。
b. *ニュースなら政治だよな。

6. まとめ

本論文では以下の問題を提起し、P、Q ともに体言が生起する P ナラ Q 形式を中心に例を考察した。

- (4) P、Q ともに体言が生起する P ナラ Q 形式の文において、ナラはどのような操作をおこなっているのか。
- (5) 「代表」、「話題」の用法にはそれぞれどのような特徴があるか。
- そして(4)、(5)の問いに対し、(15)–(17)の主張を提示した。
- (15) ナラはデータベース内を P をキーワードとして検索し、検索結果から適切な Q を抽出するという操作を行う
- (16) Q は検索結果からある抽出基準によって抽出され、P に総称的な体言が生起する場合、「代表」の用法・解釈となる。
- (17) Q は検索結果から抽出され、P に特定の体言が生起する場合、「話題」の用法・解釈となる。

先行研究では、P ナラ Q 形式についていくつかの用法が提示されていながらも、その違いが明確でなかったり、特定の用法だけに限って考察がなされていたりした。本論文では、このように P ナラ Q 形式におけるナラはキーワード検索をし、抽出操作を行っていること、同じ操作を行っていても P に生起する体言によって用法が異なることを示し、P、Q に体言が現れる P ナラ Q 形式およびナラの意味・用法をより一般的に記述、分析して提示しおした。

ただ、本論文では P、Q に文が生起している P ナラ Q 形式を取り上げることができなかった。P、Q に文が生起した以下のような P ナラ Q 形式は、本論文で取り上げた、体言が生起する場合と同様、データベースの考え方を利用して観察、考察することが可能であるように思われる。P、Q に体言が生起する場合だけでなく文が生起する場合についても分析を行い、P ナラ Q 形式およびナラの意味と用法について、より一般的な説明を示すことを今後に残された課題としたい。

- (86) ビールを飲む**なら**運転できない。
E₁₇{行為：ビールを飲む、必要：{20歳以上、アルコール耐性}、禁止：{飲酒運転、未成年での飲酒}]
- (87) 本物のダイヤ**なら**叩いても簡単に割れないはずだ。
X₁₈ [類：宝石、特徴：叩いても割れないほど硬い]
- (88) 飲んだら乗るな。乗る**なら**飲むな。 [鈴木 1992:1,(1)]
- E₁₉ [動作：車に乗る、必要なもの：{免許、視力、交通規則に関する知識、体調}、制限：{飲酒、免許不携帯、無免許}]

7. 参考文献

- 上山あゆみ(2011)「統語論に基づく新しい意味理論の提案」、人工知能学会研究会資料 SIG-SLUD-B101,pp.35-40
- 志澤剛(2011)「N1ナラN2条件形式の意味・機能と認可条件」『日本語文法』11:77-93
- 鈴木義和(1992)「提題のナラとその周辺」『園田学園女子大学論文集』26:1-12
- 仁田義雄(2009)『現代日本語文法5』.東京:くろしお出版
- 益岡隆志(編)(1993)『日本語の条件表現』.東京:くろしお出版
- 益岡隆志・野田尚史・沼田善子(編)(1995)『日本語の主題と取り立て』.東京:くろしお出版

謝辞

本論文を執筆するにあたり、担当教員の上山あゆみ先生にはご多忙の中大変丁寧なご指導を頂きました。この場を借りて深く感謝申し上げます。また、九州大学言語学研究室の王慶さん、市原佳子さんにも、お忙しい中、論文執筆に際し大変貴重なアドバイスを数多く頂きました。心より感謝いたします。本当にありがとうございました。